

仙台の大学生が南いわてで見つけた

地域づくりの しごとと図鑑



Contents

「宮手圏つながりカレッジ2024」では学生がインタビュアーとして、南いわての「地域に関わるしごと」を行うキーパーソンに取材活動を行いました。

西和賀町 (p4~5)

瀬川然
(ネビラキ合同会社)

インタビュアー

小原日菜子	東北大学	3年
金澤優来	東北学院大学	2年
田口結衣	東北学院大学	2年

花巻市 (p6~7)

鈴木寛太
(かんたはうす運営組合)

インタビュアー

齊藤愛	宮城大学	3年
谷村晃太郎	東北学院大学	3年
藤平優衣	宮城大学	2年

遠野市 (p8~9)

タナカミキ
(遠野市地域おこし協力隊/
株式会社富川屋)

インタビュアー

高橋歩未	宮城大学	3年
中村旺汰	東北学院大学	1年
山野内祐人	東北学院大学	1年

北上市 (p10~11)

藤原慶
(株式会社LOBBY)

インタビュアー

阿部泉水	宮城大学	3年
松岡孝樹	東北学院大学	1年

金ケ崎町 (p12~13)

有住龍星
(金ケ崎町地域おこし協力隊)

インタビュアー

伊藤志龍	東北学院大学	1年
齋瑛一	東北学院大学	1年

奥州市 (p14~15)

太田和美
(奥州市地域おこし協力隊)

インタビュアー

菊地彩華	宮城大学	4年
鈴木優唯	東北学院大学	4年
高木茜璃	東北学院大学	2年

一関市 (p16~17)

蜂谷淳平
(株式会社京屋染物店)

インタビュアー

及川奈月	宮城大学	3年
尾形馨子	東北学院大学	2年
富澤梨々花	宮城大学	3年

※この冊子に掲載している情報は、全て2024年11月時点の情報です。

「地域に関わるしごと」って、なんだろう？

「地域に関わるしごと」と聞いて、思い浮かぶのはどんなしごとでしょうか。

住民のために働く公務員？

住みやすい街づくりを行う不動産・建設業界の会社員？

地域のPRやイベントを仕掛ける広告代理店の会社員？

・・・などなど、どれも「地域に関わるしごと」です。

でも、もっともっと多様な地域との関わり方があるということを、

私たち「宮手圏つながりカレッジ2024(※)」参加生は知りました。

この「地域づくりのしごと図鑑」に載っているしごとは、私たちが

地域で活躍する7名の「地域に関わるしごと」をするキーパーソンと

共に過ごし、ギモンをぶつけて得てきた、現地の生の声。

きっと、これを読んでくれているあなたの「地域に関わるしごと」への

イメージが具体化されると思います。

私たちが体験してきた地域づくりのしごとを、ギュギュッと凝縮してご紹介します！

※宮手圏つながりカレッジ2024とは？

宮城県仙台市の大学生が、南いわての様々な分野で活躍するキーパーソンのもとで、実地体験や取材活動を行いながら「地域に関わるしごと」を学ぶプログラムです。今回は南いわて(=岩手県南地域)のうち、花巻市、北上市、遠野市、奥州市、一関市、西和賀町、金ケ崎町の7市町に分かれてフィールドワークを行いました。

西和賀町

西和賀町ってどんなところ？

岩手県西和賀町は、人口約4,700人、高齢化率は50%を超え、冬には2メートルもの雪に覆われることもある地域です。その厳しい気候の中にあるからこそ、はっきりとした四季が魅せる美しい自然の姿があります。豊かな水をたたえ新緑に染まる春、生きものたちの喜び、錦色に染まる秋の山々、厳しくも美しい、雪。西和賀を訪れば、きっとあなたも西和賀の魔力に取りつかれることでしょう。



『秋は短し旅せよ岩手』。そんなキャッチコピーと共に写し出されるのは、湖を眺めながらお茶を楽しむ人々の姿。JR東日本のいわて秋旅キャンペーンの広告にも起用されたことは、ネビラキカフェ。和賀郡西和賀町、錦秋湖沿いに佇む空き家を改装したこのカフェは、軽食や

地域に関わるしごとに必要な姿勢・資質・スキルとは？！

- 自分がやりたいことを発信する力
- やりたいことを明確にする力
- 周囲との交流を通して受けた刺激を素直に吸収する力

「西和賀っていいところといわれるとうれしー！」という思いと「自らが仕事をつくり何かを生み出す人が出てこなければ地域が衰退してしまふー」という思いで起業。はじめは以前から行っていたネイチャーツアーガイドを主な業務としていたが、家族ができたこと、家を探さず空き家を見つけ非常に景色が良い場所であったこと、周辺にカフェがなかったことなどからカ



ドリンク、そして西和賀町で有名なお菓子などを、錦秋湖を一望できるテラス席で楽しむことができる。西和賀町にはカフェなどの飲食店が少ないため、ネビラキカフェは観光客のみならず、地域の人の憩いの場ともなっている。ネビラキの代表である瀬川然さんは生まれてから現在まで西和賀町で過ごす生粋の西和賀好き。高校卒業後株式会社西和賀産業公社に就職し、約10年間勤務。自分がやりたいことに

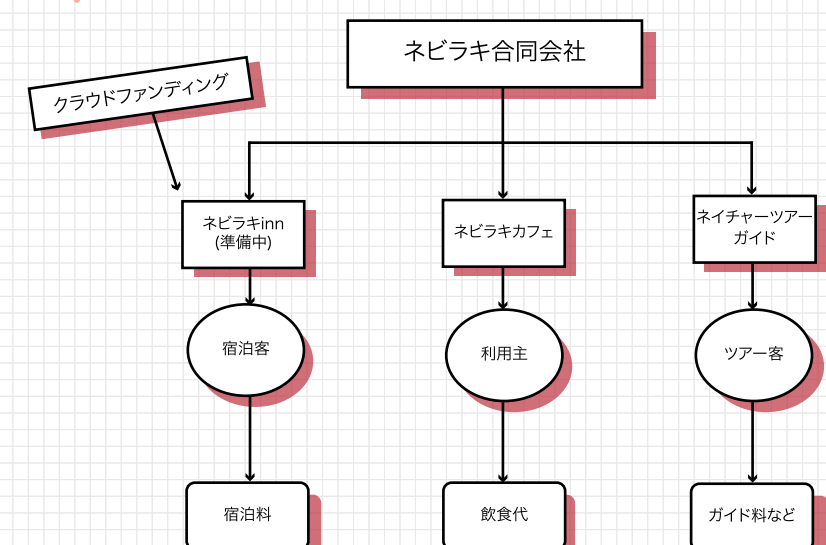
もっと力をいれたいという熱い思いから退職。「西和賀は確かに過疎化が進んでいる。しかし、西和賀を好きになる人も確実に増えている。実際に私たちが活動している間も、県外から来た西和賀ファンや西和賀で活動したいと移住した人に何人も会った。その一方で、西和賀の人々の中には、まだ価値に気づけていない人が何人もいる。内外関わらず西和賀を好きになる人を増やす、そして生きる喜びを感じられる世の中を作る。然さんの挑戦はまだまだ続く。」

フェをはじめ。現在ではネビラキ合同会社を設立。西和賀の過疎化をとめるためには、西和賀を好きになる人を増やしていかないとだめだ、と中学生の頃から考えていた瀬川さんは次のように話してくれた。多くの人は西和賀では豊かに暮らせないと思い込んでしまっている背景には、管理と評価の資本主義があり、行き過ぎると生きている喜びが奪われてしまふ…。仲間と暮らしを作っていくという感覚が、生きていて良かったという気持ちにしてくれる。瀬川さんはツアーやカフェを通じて、生きる喜びを感じられる世の中を作りたいと考えている。そして、現代の人々は、何に喜びを感じる、感動するということに危機感を持っている。『感受性』と『身体性』を取り戻すことのできるエリアを作りたい」と熱く話してくれた。

西和賀町を、
生きる喜びを感じられる
世の中づくりの出発点に。

瀬川 然 Segawa Sikari (ネビラキ合同会社)

1991年岩手県西和賀町生まれ。岩手県立西和賀高等学校卒業後、株式会社西和賀産業公社に就職。湯夢プラザや生産加工課で約10年間勤務。2019年1月に退職し、ネビラキを立ち上げる。ネイチャーツアーガイドやカフェを手がけ、2024年にはネビラキ合同会社を設立。



お仕事と収入モデルを解説！

「地域に関わるしごと」ってどんな稼働なの？

大学生ができる 地域課題への関わり方

ネビラキカフェを活用してチャレンジカフェ、ふるさとワーキングホリデー等自治体が行うプログラムや「おてつたび」等で参画することができます。実際に現地に行き、自分が体験した情報を周囲に発信することで、西和賀の魅力をPRすることで地域に貢献できます。

取材で聞いた地域の課題

- ・ 価値に気づいて動ける人の少なさ
- ・ 西和賀町内の人々が危機に見えて見ぬふり



花巻市

花巻市(大迫地域)ってどんなところ?

花巻市大迫地域は、約4,200人が暮らすぶどうとワインのまち。毎年開催される「おおはさまワインまつり」では、多くのワイン愛好者がこの地に集まります。しかし、高齢化などによりかつて200軒あったぶどう農家は一時半数にまで減少していました。町はこの問題を解決するため、2015年から地域おこし協力隊制度を通じて都市部から若者やぶどう農家になりたい人を迎え入れ、新しい息吹を吹き込んでいます。

ぶどうを中心に大迫ににぎわいを作りたい。
僕はそのパイプ役。



鈴木 寛太 Suzuki Kanta

(かんたはうす運営組合)

1991年東京都生まれ。大学生の時に東日本大震災のボランティアとして東北へ。サラリーマンをやめ、2015年から3年間花巻地域おこし協力隊として活動。2017年からブドウ農家として活動し、「KANTAWINE」のブランド化に成功。現在では花巻市を盛り上げるために、地域コーディネーターの役割を果たしている。

花巻市大迫町は「神楽とワインの里」と呼ばれている。鈴木寛太さんはぶどう農家として生食用のぶどう、大迫町にしかない醸造用のぶどうを栽培している。さらに委託醸造で「KANTAWINE」の販売も行っている。その他にも大迫高校で地域コーディネーターとしての活動、空き家を解消し「かんたはうす」と称した自宅に住みながらの民宿運営、地域住民と一緒に「ちんどん屋」などの活動で大迫町に新しい風を吹かせて地域を盛り上げている。

手不足解消。ぶどう振興活動の一環で人と農家をつなぐパイプ役を担っていた。しかし、地域の高齢化で後継者不足が深刻な中、「土地はあるが農業ができない」という農家さんからの声を聞くうちに、実際に自分がぶどう農家をやることが一番のぶどう振興につながる。2018年に自身もぶどう農家として就農。農業経験はゼロだったものの、地域の人に頼る素直さを大切に積極的にコミュニケーションとり学びながら農業を覚えていった。

地域と連携した探究学習とボランティア活動や宿泊先の提供などを武器に活動を行っている。このように寛太さんは農業をあくまで大迫町ににぎわいをつくるための手段と考え、農業に縛られず、地域課題に対して多方面からアプローチをしていた。そして最終目標にぶどうを中心にしたにぎわいをつくること、大迫の内と外の関係性を強くすることを掲げている。そのためには強いマインドを持つことが必要なのだと言ってくれた。ぶどうを育てる際に肉体的労働で疲れたり、天候に左右されて肩を落とすような時もあるが、仲間が助け合ったり、ぶどうを待つてくれる人がいることを思い出し日々の活力ややりがいに繋がっているという。



寛太さんは大迫町に対する強い思いを持っており、原点として振り返ったり、物事を前向きに捉えたりして継続力に繋がっている。マインドは寛太さんの心の強さそのものであると感じた。

地域に関わるしごとに必要な姿勢・資質・スキルとは?!

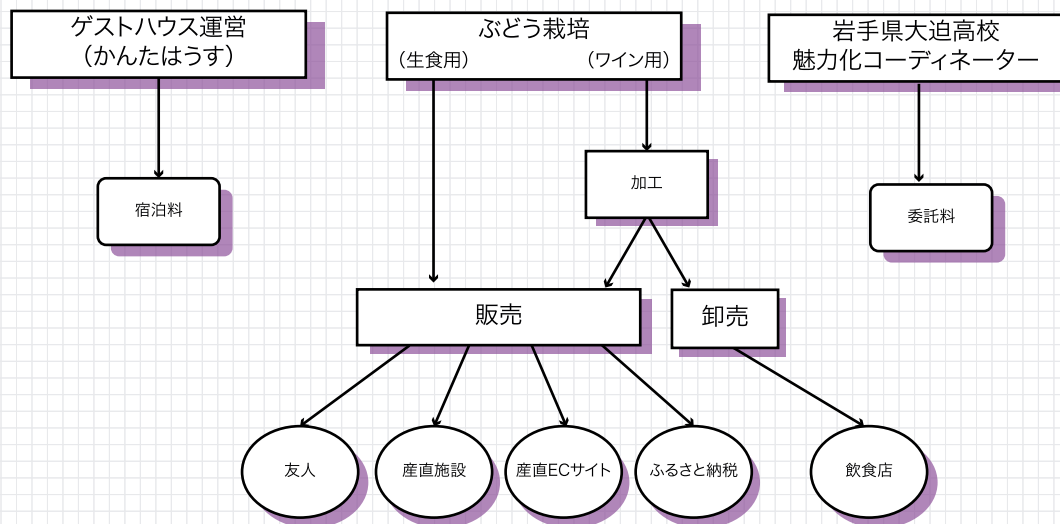
- 地域の人へ積極的に頼っていく力
- その地域に馴染み、相手に信頼される素直さ
- 目標を立てて地道に努力する力
- 好きなことをやり続けられる持続性

また、寛太さんが実施している活動はぶどう農業以外にも多岐にわたる。かんたはうす(自宅兼民宿)は自身がキーパーソンとなり、来訪者が地域での様々な体験を広げるための拠点である。そこではぶどう栽培体験などを通じてぶどう・ワインを肌で感じたり、夕食には宿泊者共同でカレーを作るのが恒例となったりと充実した時間を過ごすことができる。大迫高校では「高校生おおはさま留学」を行っているが、寛太さんは学校の存続と関係人口を増やすために



お仕事と収入モデルを解説!

「地域に関わるしごと」ってどんな稼働の?!



取材で聞いた地域の課題

大迫町のにぎわい喪失

大学生ができる
地域課題への関わり方

この地域課題の解決には関係人口の増加が必要だと考えます。そしてそのためには大迫町の情報はもちろん、寛太さんのような「大迫町といえばこの人!」というキーパーソンがいることなど、町について積極的に発信し関係人口のつながりを広げることが重要です。また、私たち自身も町の祭りやイベントに参加したりブドウやワインといった町の特産品を買ったりすることで、結果的に関係人口が増えて町のにぎわいの創出につながります。



遠野市

遠野市ってどんなところ？

岩手県遠野市は、人口約24,000人が暮らす四方を山に囲まれた美しい盆地です。『遠野物語』で知られ、かつて旅人や商人の宿場町として栄えたこの地には、伝説や文化が今も息づき、地域の人々によって語り継がれています。そのためか、遠野に降り立つと、どこか懐かしさを感じさせる温かい雰囲気に包まれます。

私は遠野が大好きだけど、みんなはどう？



タナカ ミキ Tanaka Miki
 (遠野市地域おこし協力隊/株式会社富川屋)
 1996年千葉県船橋市生まれ。
 大学卒業後は人材派遣会社に就職。大宮に派遣される。営業を担当。3年務めたのち退職。
 2021年に地域おこし協力隊として遠野市に派遣される。

岩手県の南東部に位置する周りを山に囲まれた町、遠野。玄関口である遠野駅からまっすぐのびる駅前商店街を進むとそこに富川屋があった。以前は布団屋さんであったという引き戸を開けるとそこに、タナカミキはいた。
 自然豊かな小さな町に笑顔の絶えない素敵な若い女性がいる。その方の名前は、タナカミキさん。千葉県船橋市で生まれ、大学卒業後、東京にある人材派遣会社に就職し、埼玉県の大宮に配属。営業を担当した。しかし新型「コロナウイルス」の影響で働き方が変化したことをきっかけに、自分の今後を見直すことに。「違うことへ挑戦したい！」そんなある日、ある一冊の雑誌に出会う。その雑誌の中で、地域おこし協力隊の求人があった。そこで見つけた求人が、ミキさんの人生を変えた。「岩手県遠野市」。その地に初めて来た時、現地の方々の温か



さから「任める」と確信したという。

そんなミキさんは、遠野市でどのような仕事をしているのか。一つ目は、遠野市地域おこし協力隊として富川屋という会社のメンバーになり、企画やデザインの視点を活かして「ランニング」や「プロデュース」、ツアーリズム、商品開発を行っている。二つ目は、遠野テレビ市民キャスターとして、テレビ出演している。三つ目は、遠野高校でゼミ講師として、高校生に教えている。四つ目は、地元で伝わる伝統芸能である「鹿踊り」の踊り手として参加している。他にも、地域づくりのためのイベント運営、司会をしている。

地域に関わるしごとに必要な姿勢・資質・スキルとは？!

- 話す努力よりも「聴く」努力をすること
- そのまちが好きという気持ちを大切にすること
- 「地域おこしをする!」ではなく、自分の活動の結果に共感した人と協働すること

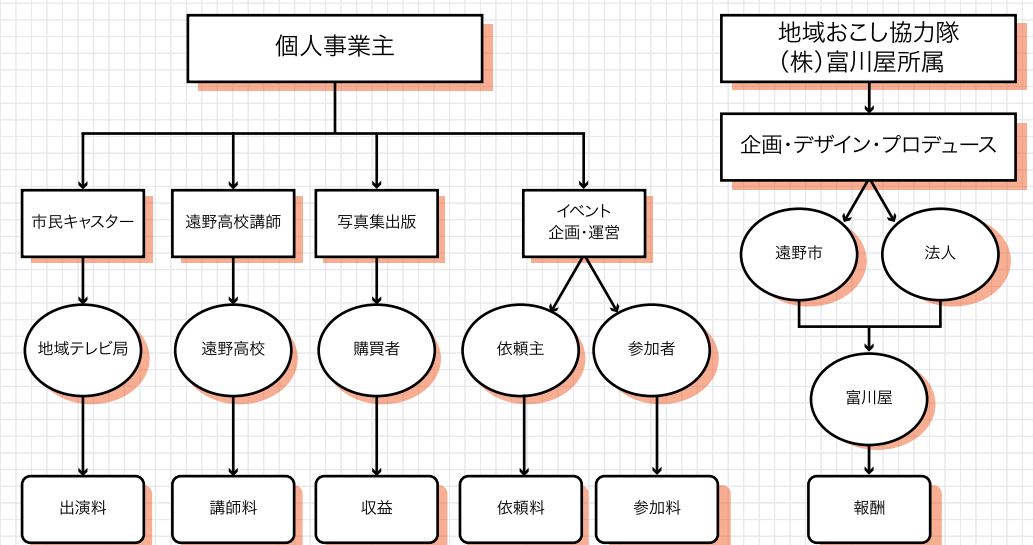
「私の仕事は言い出しっぱなしです。好きになつてね、じゃなくて、私は好きだけど、みんなはどう?みたいな感じ。私が遠野でやりたいことを実現していくのを見て、いいなって共感し



てくれる人が増えたりとか。それで結果的に、この町が活性化するのかなと思っていました。」と楽しそうに語るミキさん。ミキさんが「言い出しっぱなし」な遠野に持ってきた種(遠野での活動)は、いずれ成長して、巨大な樹となり、遠野市の人々だけでなく、遠野市外の人々も訪れる「待ち合わせ」の場所となるだろう。
 今後ミキさんは、遠野で会社を立ち上げ活動していく予定だという。将来について「仕事や活動の中で挑戦したいことはたくさんあるのですが、一番はこの先もずっと、この町の「員」として遠野暮らしを誰よりも満喫することは忘れたいです。」と語るミキさんからは、地域愛という言葉ではまどめられない強い想いを感じた。

「地域に関わるしごと」ってどんな様々なの?

お仕事と収入モデルを解説!

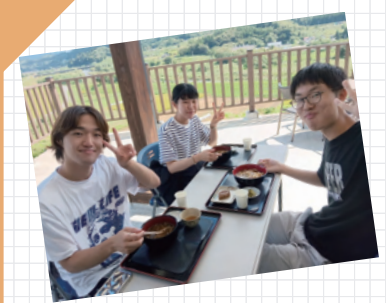


取材で聞いた地域の課題

「遠野って何も無いよね」と思っている地元民が多い

大学生ができる地域課題への関わり方

「地域活動に携わりたい!」と思っている学生が多い中で、まちにとって「一番の貢献は、」また「ここにきたい!」と思いついて、遊びに来てくれることです。住民目線ではあまり感じなかったことが、学生という異なる目線から考えることで、新たな発見が生まれます。「そんな簡単なこと?」と思うかもしれませんが、学生だからこそできる動き方の一つだとも言えるでしょう。



北上市ってどんなところ？

岩手県北上市は、人口約91,000人を有する都市で、江戸時代には奥州街道の宿場町として栄え、交通の要所となりました。北上駅前から商店街までのエリアでは、市街地再開発事業が進行中で、「もてなすゾーン」「くつろぐゾーン」「にぎわうゾーン」などのテーマで活性化が図られています。地元特産品やグルメが楽しめる中、個性豊かな古着屋や多肉植物専門店、八百屋直営のフレッシュジュース店など、若者向けのお店も増え、新たな賑わいを見せています。

地域がさらに前向きに進んでいくようなアイデアを。



藤原 慶 Fujiwara Kei
(株式会社LOBBY)

1993年岩手県北上市生まれ。専門学校盛岡カレッジオブビジネスで観光ビジネスを専攻したのち、観光業界でキャリアを積む。現在は北上市議会議員を務める。さらに、株式会社LOBBYの代表取締役や、複数の市民活動団体・企業で役員を務め、地域活性化に尽力している。

若手県北上市で、自分のやりたいことに挑戦し、ポジティブな街にする！北上市市議会議員であり、「北上市民劇場を盛り上げる会 やっべし」の役員として演劇にも携わりつつ、そのような想いで北上をさらにアツクする男がいた。イベントプロデューサー、映像制作、グラフィックデザインを通して北上の良さを伝える。北上に着いたとき、なにか熱気を感じたのは、自分にもその想いが届いていたのかもしれない。

そんな株式会社LOBBYの代表取締役、藤原さんは北上市生まれ北上市育ち。生粋の北上市男児だ。専門学校にて観光ビジネスを学んだ後、旅行会社に就職。盛岡市・北上市にて2社経験し、北上観光コンベンション協会に転職した。しかし、新型コロナウイルスの流行で様々なイベントが中止に。観光協会も大打撃を受けた中、自

分になにか北上や若手にできることはないか考えた。また、地域でやりたいことができていないのに地域にいる自分に対して違和感があった。せっかく自分の時間が増えたのだから、自分のやりたいことをやるう！そのような想いをもとに株式会社LOBBYを設立。



自分のやりたいことを実現する力 (相応力、自発性)

自分の意見を持ち、感じたことを大切にすること

将来の軸を明確にし、行動力につなげる

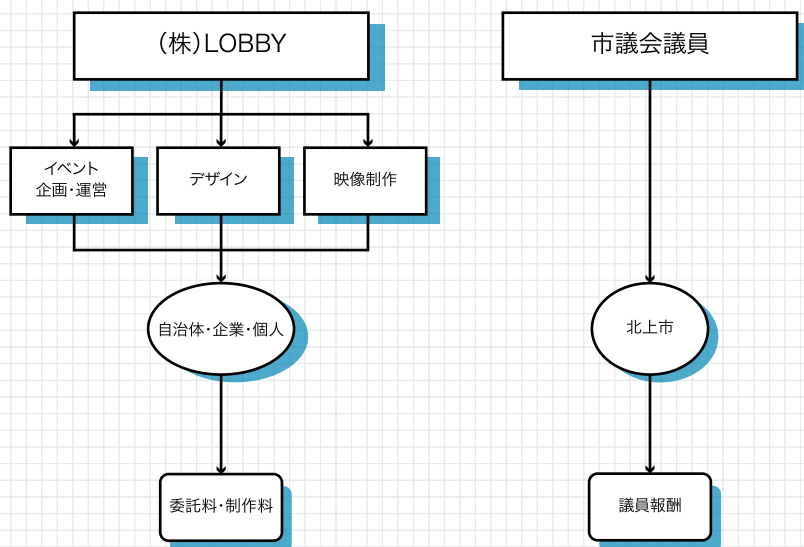
一年目は副業として、音楽イベントの運営デザイン、自分たちで企画したイベントの制作等を行っていた。そこから、「ローカルシティからポジティブシティへ」という想いをもとに、イベントプロデューサーや映像制作、グラフィックデザイン、そして地方でなにかやりたい人への〇からの援助を行い、北上を盛り上げる。そのような地域での仕事では、演劇で得たコミュニケーション能力、様々な年代の人たちと関わった経験が活かしているそう。その中で藤原さんは、地域で仕事をする上で、自分たちにしかできないことを提供する、ネガティブからポジティブへ前向きに変換していくことを大切にしているそうだ。地域の現状に不満を抱えている人たちが



一緒に仕事をするケースが多い藤原さんは、「ネガティブな状態からポジティブな状態に変換していくことが、地域がさらに前向きになっていくことを推し進める。自分たちは地域がさらに前向きに進んでいくようなアイデアを提供するよう心がけている。」という。また、その中で藤原さんは、「相手が感動しているのが見えた時が一番うれしく、達成感を感じる。なぜなら、期待通りだと満足で終わるが、感動はその期待を超えたものだから。また、自分が支援したクライアントの方が、その後その人自身で行動を起こしている」と、自分がしっかりと貢献できているんだなと感じる。人は心を動かされないと行動しない。自分の支援によって心が動かされ、行動に繋がったのならとてもうれしい。」と語る。

株式会社LOBBYは今後、経営基盤の安定、そして地域でなにか行動を起こしたい人自分たちを選んでもらうために、さらに進歩を続ける。地域に携わる方法はさまざまであり、地域で自分のやりたいことができるチャンスは突然やってくるかもしれない。地域づくりを身近なものとして考え、自分にもなにか地域のためにできることはないか考えていきたい。

「地域に関わるしごと」ってどんな稼働なの？



取材で聞いた地域の課題

地域が増やす、街づくりの若者の出会いの連鎖

大学生ができる地域課題への関わり方

情報量が少ない地域では、環境の変化にどう対応し、地域を豊かにするかを考える姿勢が重要です。活動を通して、私たちは感度を高く持ち、地域で感じた違和感や実感を大事にすることで地域課題を意識することを学びました。若者がつなげる機会を増やすために、地域のイベントやワークショップに参加し、ネットワークを広げることや、SNSを活用して課題を共有し、イベントを企画して新たなコラボレーションを生み出すことが必要です。



金ケ崎町ってどんなところ？

南いわての中央に位置する金ケ崎町は人口約15,000人。肥沃な農地から成る第一次産業と、県内最大の工業団地を擁する工業が盛んな地域です。岩手県ではじめて「生涯学習宣言都市（「生涯教育の町」宣言）」を出しており、教育や学びを重視した地域づくりが進められてきました。町内唯一の中学校・高校と地域が連携した活動も盛んになってきています。

僕と活動した高校生が、
地域を盛り上げる何かを
起こすことが僕の願い。



有住 龍星 Arisumi Ryusei

(金ケ崎町地域おこし協力隊)

2000年岩手県金ケ崎町三ヶ尻地区生まれ。小中を金ケ崎町で過ごし、高校は北上市にある黒沢尻北高校に進学。東北大学工学部に現役合格。大学卒業後は地域おこし協力隊、金ケ崎高校魅力化コーディネーターに就任。現在自習室WIBを試験運用している。



岩手県胆沢郡金ケ崎町で地域おこし協力隊以下協力隊に所属し同時に金ケ崎高校魅力化コーディネーター（以下コーディネーター）をして金ケ崎地域で顔を上げ、将来的には現在お試し中である自習室WIBで一般的な塾の役割に加えて、高校生が地域に出て行く活動のサポートをして高校生と地域に繋がりを作れるような塾を目指して活動している。今回のインタビューを通じて金ケ崎町や教育に対する熱い思いを感じ取ることができた。

そんな様々な活動をしている有住さんはどこにでもいそうな20代の若者。大学三年時に友人の協力隊の活動を手伝ったことがきっかけで大学卒業後は仙台から金ケ崎に戻り有住さん自身も協力隊に入った。大学入学時は、薬学部卒の担任に影響を受け科学を教えられる教師になることが夢であった。教師になる夢は

諦めたが教育という分野に関わる何かをしたい気持ちがあり、大学在学中に感じた金ケ崎と仙台の教育格差を改善するためにコーディネーターに就任した。

これらの活動の具体例のひとつに、今回私たちがお手伝いをさせて頂いた「三ヶ尻地区夏祭り」がある。三ヶ尻地区夏祭りはここ数年中止となっていたが、有住さんの地元である三ヶ尻地区に恩返しをという思いから昨年有住さんから有志実行委員によって復活した。今年で第2回目となる夏祭りは、有住さんが夏祭りの実行委員長として開催された。その中で有住さんから提案を受け出店した高校生たちがいた。そこで高校生たちと地域に繋がりを持たせつつ、有住さんの活動を高校生たちに見てもらおうことにより将来的には今の高校生たちが有住

さんのように地域を盛り上げるようなことをやってほしいという願いがあった。

コーディネーターをしていて高校生とかかわる機会が多い有住さんは大切にしていることがある。それは答えを教えずに自分で考えることと、生徒に自分たちで立てた仮説を実行させてうまくいかなかったら判断させ思考のプロセスを考えさせることである。夏祭りの屋台についての会議を行った際には高校生の出した案を否定から入らず、「一度やらせてみて失敗を経験してもらおう」とおっしゃっていたシーンがあった。このエピソードからも初めから正解を教えず、自ら経験をしてもらいたいといった意志を感じた。

そこには自分で考え、自分で動けるような力の子供たちに身につけてほしいという有住さんの思いがあった。

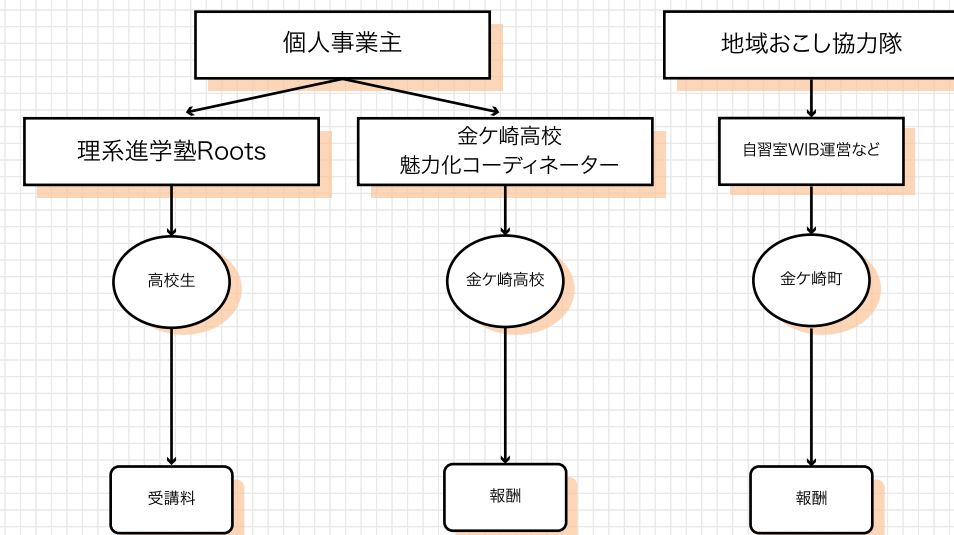
地域に関わるしごとに必要な姿勢・資質・スキルとは？!

- ▶ 学生や住民などとの幅広い関わりを持つこと
- ▶ 生徒自身が考え・判断する力を育てるために「待つ」根気



「地域に関わるしごと」ってどんな様々なの？

お仕事と収入モデルを解説!



取材で聞いた地域の課題

・地域の人と地元の学生をつなげる活動をしている人がいないこと

・金ケ崎と仙台の教育格差

大学生ができる地域課題への関わり方

地域課題を解決するには「人とのつながり」があることが一番の近道だと感じました。有住さんのように、地域内外に様々な人のネットワークと信頼関係があれば、何かイベントやプロジェクトを行う際にも協力やお手伝いを依頼できます。地域の高校生や子どもたちとのつながりも活かせば、地域との関係も深くなり、その地域をもっと大切にできるようになると感じました。大学生のうちから、「もっと」人のつながりをつくることが重要だと思えます。



奥州市

奥州市ってどんなところ？

約109,000人が暮らす奥州市は、メジャーリーグで活躍する大谷翔平選手の出身地でもあり、南部鉄器や岩谷堂筆筒等の伝統的工芸品、ブランド農産物の前沢牛や江刺りんご、大河ドラマ等のロケで利用されるえさし藤原の郷など、多様なコンテンツに溢れる地域です。南部鉄器業界では後継者を増やすため、業界を挙げて担い手確保の取り組みを進めています。

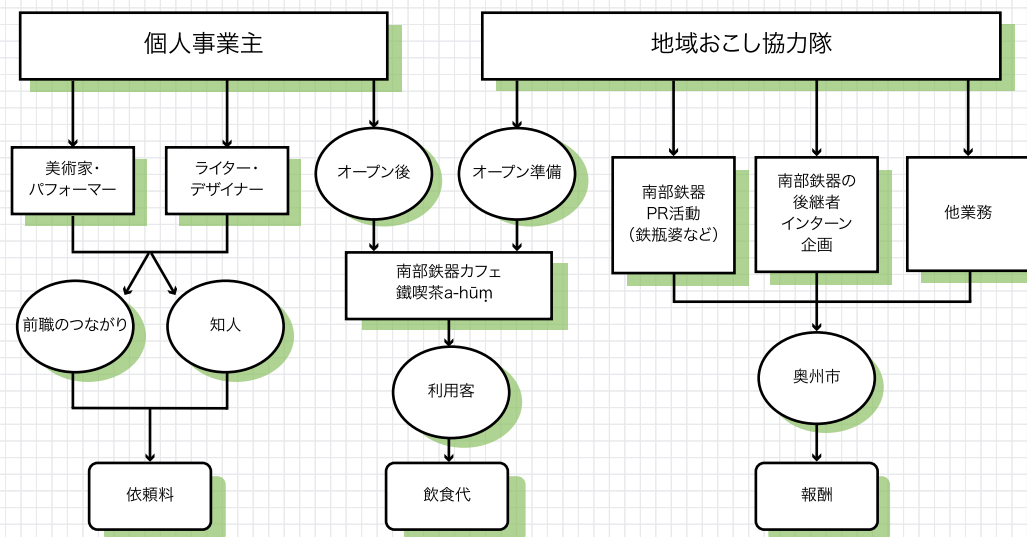
私の仕事は南部鉄器への敷居を下げることに。



太田 和美 Ota Kazumi

(奥州市地域おこし協力隊)

1988年宮城県仙台市生まれ。東京造形大学で空間デザインを専攻。2012年に仙台市へUターンし、被災地での取材活動や子供たちとの新聞作成に取り組む。2023年6月から奥州市地域おこし協力隊に着任し、南部鉄器の魅力発信等に取り組んでいる。



お仕事と収入モデルを解説！

「地域に関わるしごと」ってどんな様子なの？



奥州市の玄関口である奥州市水沢羽田は、世界に誇る伝統工芸品「南部鉄器」の工場が集まる町。今年、この町で唯一のスナック喫茶を事業継承した奥州市地域おこし協力隊の太田和美さん。南部鉄器を取り入れた新しいスナック喫茶への生まれ変わりに挑戦する。協力隊の活動では、南部鉄器職人の後継者育成を目的とした学生インターンの企画や伝統産業会館のリニューアル等を行う。他にも、ライターやデザイナーなど幅広く精力的に活動している。

初めて和美さんを見たのは紹介画像だった。そこには、なんと白塗りの女性。『鉄瓶婆』というキャラクターも演じているという。しかし、実際あつてみると、笑顔が素敵な小柄な女性。そんな和美さんには人一倍の行動力と決心があった。

スナック喫茶を事業継承することになったのは、地域おこし協力隊仲間と市の職員さんと店を訪れた時。来年の6月には店を閉めることを店主から聞いたことから、和美さんは「じゃあ私継ぎます！」とその場で自ら志願した。町の人が集まるサロンの役割を担ってきた店がなくなることは、町の機能が失われる危機だと感じたらだ。現在は、そのスナック喫茶で南部鉄器を使った料理や白湯を提供する、南部鉄器カフェの開業に挑戦している。地域おこし協力隊になる前から伝統工芸品に対する憧れや職人さんに対する尊敬を抱いていた和美さんだが、南部鉄器を発信する立場になって初めて「南部鉄器を日常に取り入れるのは敷居が高い」と気付いたのだそう。その敷居を下げるためには、味覚・嗅覚で味わって南部鉄器を楽しんでもらうてこそ考え、南部鉄器カフェの開業に挑戦したい。南部鉄器への敷居を下げるのが協力

地域に関わるしごとに必要な姿勢・資質・スキルとは？！

- 「相手のために」と自分の正義を押し付けない
- 話を聞いてくれる喫茶店主という印象をつけるための傾聴力
- 日常会話から情報収集するためのヒアリング力
- 苦手なことをあえて仕事にすること

スナック喫茶を事業継承することになったのは、地域おこし協力隊仲間と市の職員さんと店を訪れた時。来年の6月には店を閉めることを店主から聞いたことから、和美さんは「じゃあ私継ぎます！」とその場で自ら志願した。町の人が集まるサロンの役割を担ってきた店がなくなることは、町の機能が失われる危機だと感じたらだ。現在は、そのスナック喫茶で南部鉄器を使った料理や白湯を提供する、南部鉄器カフェの開業に挑戦している。地域おこし協力隊になる前から伝統工芸品に対する憧れや職人さんに対する尊敬を抱いていた和美さんだが、南部鉄器を発信する立場になって初めて「南部鉄器を日常に取り入れるのは敷居が高い」と気付いたのだそう。その敷居を下げるためには、味覚・嗅覚で味わって南部鉄器を楽しんでもらうてこそ考え、南部鉄器カフェの開業に挑戦したい。南部鉄器への敷居を下げるのが協力



取材で聞いた地域の課題

- ・地元の人々が関わり合える交流の場所がなくなっていること
- ・奥州市の情報発信が多量になっっていること

大学生ができる地域課題への関わり方

地元の人が交流する場所がなくなる中で、喫茶チロルのような交流の場所があることをSNSや地域の活動への参加を通じて周囲に伝えていくことが私たちにできることだと考えます。また、市外の人と地元の人が関わり合う方法を考えること、他地域の情報発信の仕方をリサーチすることで、地域課題に向き合うインフラを増やすことも、大学生だからできることではないでしょうか。今後も和美さんのお手伝いを通じて、私たちも地域課題について考えていきます。



一関市

一関市ってどんなところ？

人口約107,000人が暮らす岩手県一関市は、歴史と自然が調和した地域です。昭和の名残を感じさせる古い街並みや文化遺産が息づき、伝統芸能「鹿踊り」が現在まで継承されるなど、地域の文化を豊かにしています。また、周囲の里山が身近に感じられる地形で、ニホンジカやカモシカ、タヌキなどの野生動物が日常の一部として存在し、自然との共生を象徴しています。

自分たちが作っている品物は地域を繋ぐことができるという手応え。



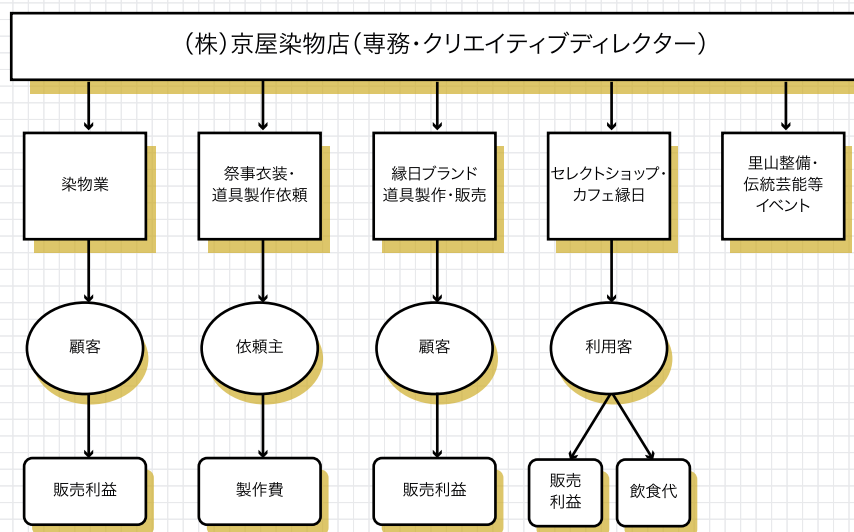
蜂谷 淳平 Hachiya Junpei

(株式会社京屋染物店)

1982年6月8日岩手県一関市生まれ。

京屋染物店en・nichiクリエイティブディレクター。東北芸術工科大学デザイン工学部情報デザイン学科で情報デザインを専攻。その後父親の癌が見つかり兄とともに京屋染物屋を継ぐ。

2011年に被災をした絆纏を直してお祭りを復活させ復興に携わった。



お仕事と収入モデルを解説！

「地域に関わるしごと」ってどんなイメージなの？

今回お話を伺った蜂谷淳平さんは、3兄弟の末っ子として京屋染物店に生まれ、現在は株式会社京屋染物店の専務取締役を務めています。京屋染物店は100年以上続く歴史があり、古くから一関の伝統を支えてきた。祭事を



行うこともあったため、淳平さん自身も幼い頃から祭りの存在は非常に身近であったと語ってくれた。また、昔から自然と関わることが好きで、よく釣りをしていたそうだ。その後、趣味であったスノーボードの影響もあり、山形県山形市にある東北芸術工科大学に進学した。大学では「やまがた宝さがし」というプロジェクトを通して様々な地域を取材し、地域の魅力を発信する技術を磨いた。

大学卒業後は、大きな理由もなく家業を継いだ淳平さんだったが、ある出来事によってその思いが変化したという。それは2011年に発生した東日本大震災だ。若手県も震災の影響を受け、沿岸部へボランティアに赴くなどしていた。震災から半年ほど経ったとき、被災地の人々から「絆纏を直してほしいと傷んだ絆纏が届いた。当初はもっと優先するべきことがあるのではないかと思っていたが、震災だからこそ祭りを行いたいという地域住民の熱い思いに感化され、無償で絆纏を修繕することを決めたとした。この出来事から、自分たちが作っている品物は地域を繋ぐことができることに気がつき、伝統文化が持つ力を実感したそうだ。

地域に関わるしごとに必要な姿勢・資質・スキルとは？！

- ▶ 新たな物事を恐れずに受け入れ、積極的に新規事業へ乗り出す力
- ▶ 周りをよく観察し、適材適所に人材を振り分ける能力
- ▶ 周りやチームの意見を尊重し、取り入れる力

しかし、大正7年の創業当時に3万社程あった染め物屋は、令和元年には200社程に減少しており、現在、染め物は衰退の途を辿っている。業界が停滞する中で、淳平さんは自分たちが変化していかなければならないと考えた。事業を行う上では「持続性」や「柔軟性」を意識

しており、現在も多様な事業に挑戦し続けている。チームひとりひとりが自ら考えて動くことを求めている。また、以前、ミスマッチを理由に案外されている。多くの人が退職してしまった経験から、主体性や染め物への思いの強さなど、人物像を重視して採用を行っているようだ。働く上では自然体であることが大切で、足りない部分を補完し合えるチームが理想だと語ってくれた。今後の展望としては、里山整備をさらに進めていくことを挙げ、ビジネスに繋げることはもちろん、実際に自分が経験したように、子どもたちが失敗や怪我を通して自然から多くのことを学べる場所を提供したいと仰っていた。



淳平さんのお話から、伝統文化の回く揺るがないイメージが少し変化したように思う。私たちもこれから継続的に一関に関わっていくことで、染め物という伝統文化の伝承に貢献したい。

取材で聞いた地域の課題

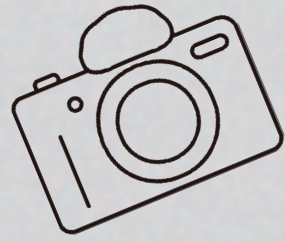
- ・地域の魅力や価値を 知れていない一関市民
- ・他地域のコピーのような 魅力発信

大学生ができる

地域課題への関わり方

地域のお祭りやイベント等に参加・協力し、一緒に盛り上げることが大学生にできる関わり方だと考えます。地域活動に参画することで、その地域への愛着がわきます。地域活動で気づいた・感じた魅力を発信し、同世代を中心に伝播させていくことが大きな貢献要素になると感じました。魅力を知った「自分自身」のコミュニケーションが、その地域の魅力をより引き立てる発信につながるのではないのでしょうか。





ワールドワークのまろく

プロモーション冊子の撮影!



北上市
8/24~25



高校生の夏祭りの出店をお手伝い!



金ヶ崎町
8/17~18



奥州市
8/14~16

START!

南部鉄器で焼くフレンチトーストは絶品!

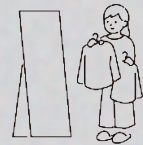


ネビラキカフェでLet'sクッキング!



西和賀町
8/28~29

花巻市
9/2~3



染物の絆纏ってこんな風にしてもらった!



一関市
9/6~7

鹿踊りの太鼓&笛に挑戦!



遠野市
9/7~8

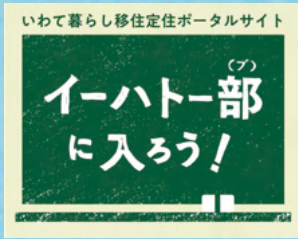
GOAL!



みんなでぶどう収穫体験!



要チェック!岩手県&いわて圏からのご案内



いわて暮らし移住定住ポータルサイト 「イーハト一部に入ろう!」

いわての移住・定住情報をお届けするポータルサイト。仮入部通信することで、毎月2回、イベント情報や岩手の最新情報をメルマガでお届けします。移住者インタビュー記事も充実!



シゴトバ クラシバ いわて

岩手県最大級のU・Iターン就職・転職マッチングサイト。岩手県内の企業・求人情報や面接会、各種イベント案内など、岩手の就職・転職に役立つ情報を発信しています!



みんなの想職活動

Z世代の就職活動を応援するメディア。岩手の企業の面白さと、そこで働く人のカジュアルな切り口で発信! いくつか岩手で働くことが選択肢にある学生・若い世代に寄り添うサイトです。



公益財団法人ふるさといわて定住財団

毎年、仙台や東京で開催する「岩手県U・Iターン就職フェア」等の開催や、就職活動時の交通費を補助する「就職活動交通費等の支援」等を行い、岩手への就職・転職を応援しています。



南いわてSLACKコミュニティ 「南いわてつながる〜む」

南いわて(岩手県南部)の地域活動に関する情報を、ゆる〜く共有・発信し合うコミュニティ。「宮手圏つながりカレッジ」参加学生も参加しています! 右記二次元コードから参加申請が必要。
※slackアプリのインストールと登録で利用が可能になります。



いわて圏民会

首都圏や仙台圏などの都市部に暮らし、いわて圏民(=出身者・ファン等)が集まって楽しく交流するイベント。「いわて圏民会」を季節に一度開催! 帰省する交通費が当たるクイズ大会やゲストを招いた交流も活発です!
※公式LINEに登録すると、いわて圏民会や岩手に関する首都圏・仙台圏のイベント情報が毎月配信されます。特典もあるよ!

